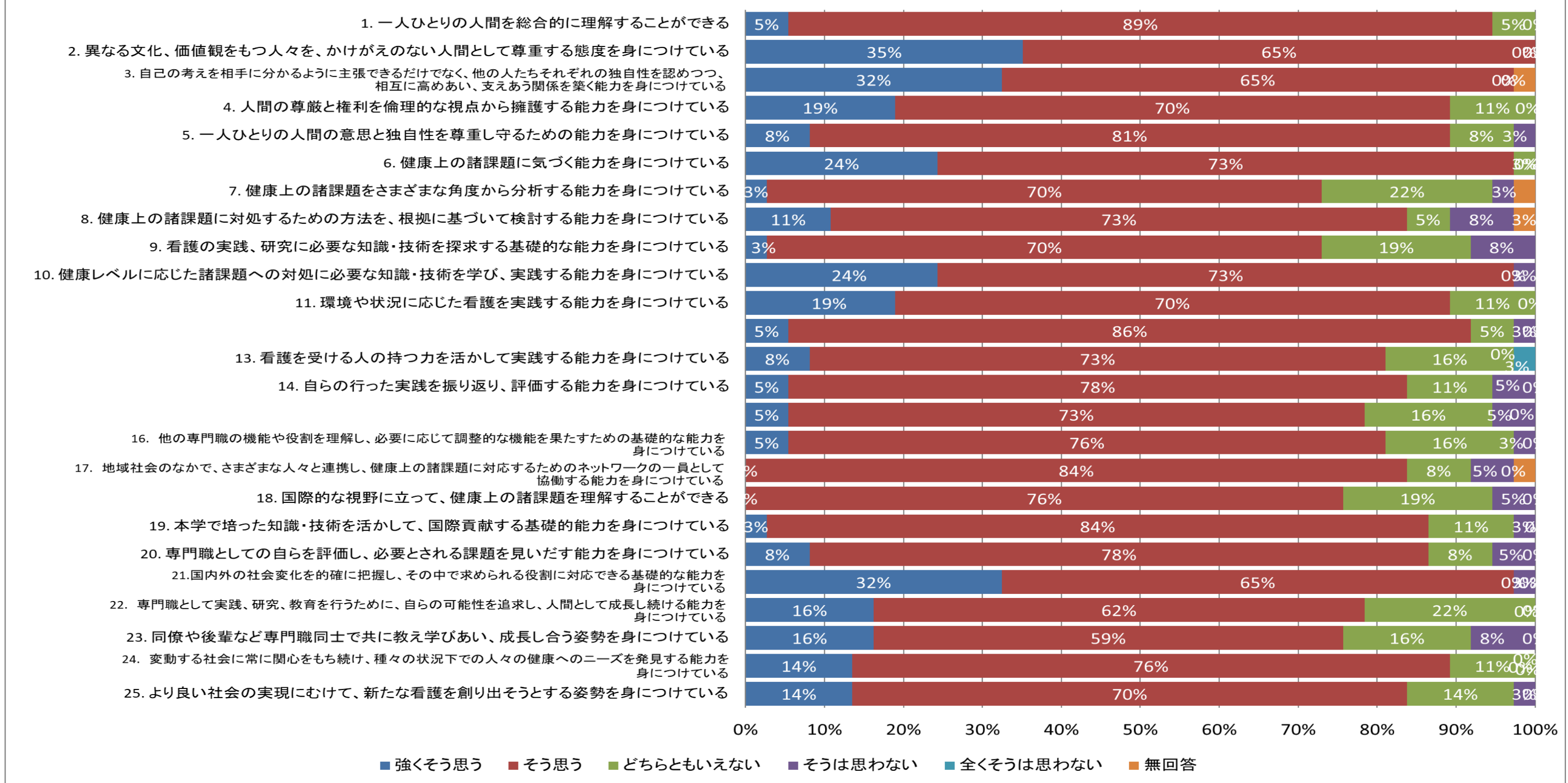


2019年度の調査は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、WEBによる調査を行ったところ、例年よりも回収率が低くなりました。調査結果のうち、卒業時4年生が本学で身に着いたと捉えている能力は(9割以上の学生が「強く思う」「そう思う」と回答)は、「関係を築く力(DPⅠ)」「擁護する力(DPⅡ)」「実践する力(DPⅢ)」でした。具体的には、次の項目が上位でした。  
 <身についた力>

- 他の人たちと相互に支え合い、成長し合う関係を築くことができる(100%)。
- 異なる文化、価値観をもつ人々を、かけがえのない人間として尊重する態度を身につけている(97.3%)
- 一人ひとりの人間の意思と独自性を尊重し守るための能力を身につけている(97.3%)
- 自らの行った実践を振り返り、評価することができる(97.3%)。
- 専門職を目指す者同士で共に教え学びあい、成長し合う姿勢を持つことができる(97.3%)。
- 一人ひとりの人間を総合的に理解することができる(94.6%)
- 自らを取り巻く状況で取り組むべき課題を見出すことができる(91.9%)。

2019年度調査 卒業時に身についた力 (学部4年生(編入生含))



本学の在校生2～4年生のカリキュラムに対する受け止めについて、「強くそう思う」「そう思う」と肯定的に評価した項目の上位は、次の通りでした。学習段階に応じたレベル別の看護学実習が展開されている点、エビデンスに基づく看護実践、人間の尊厳と権利を守る力を養うカリキュラムであると評価されています。

＜本学のカリキュラムについて評価＞

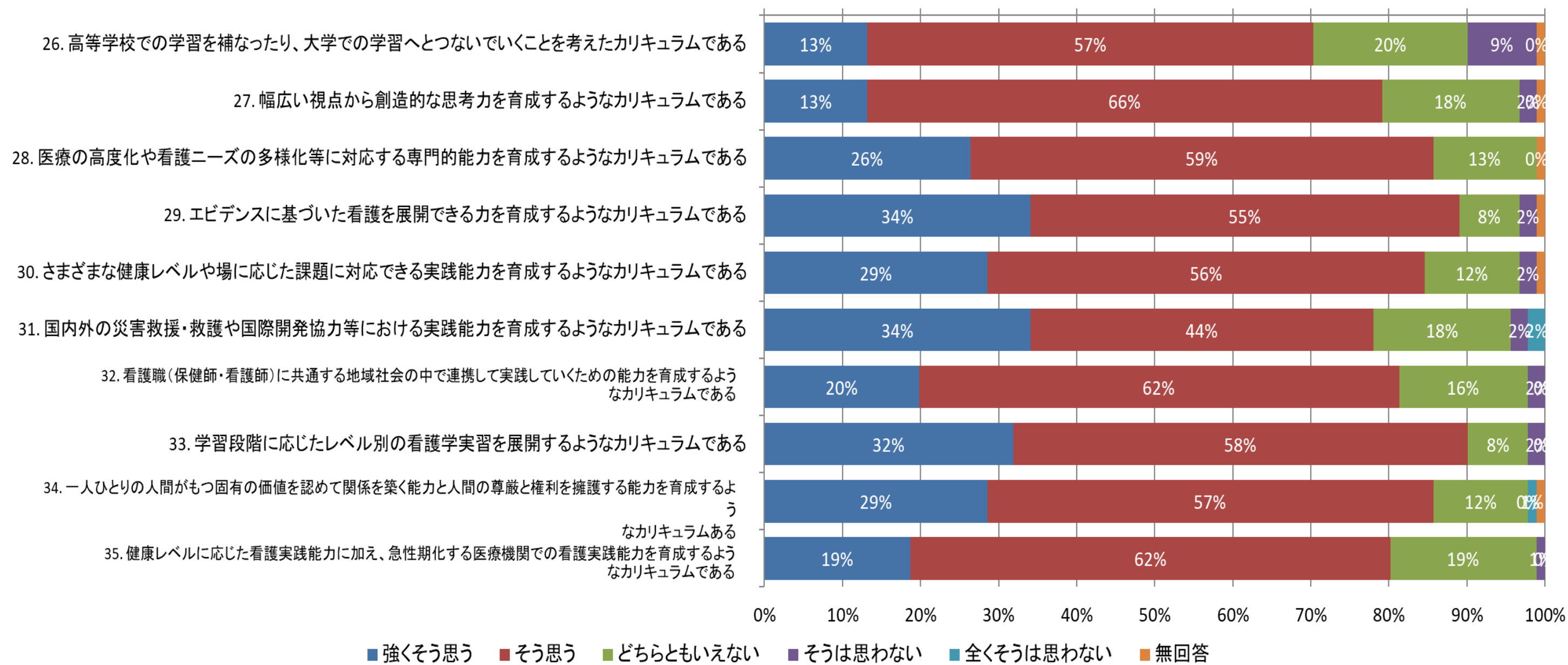
学習段階に応じたレベル別の看護学実習を展開するようなカリキュラムである(90.1%)

エビデンスに基づいた看護を展開できる力を育成するようなカリキュラムである(89.0%)

一人ひとりの人間がもつ固有の価値を認めて関係を築く能力と人間の尊厳と権利を擁護する能力を育成するようなカリキュラムである(85.7)。

さまざまな健康レベルや場に応じた課題に対応できる実践能力を育成するようなカリキュラムである(84.6%)

2019年度 本学のカリキュラムに対する評価(学部2～4年生)



本学の在学生在が学習環境に関して、「強く思う」「そう思う」と肯定的に評価した項目の上位は次の通りでした。学問分野の専門家として優れた教員が多いことや、学生を尊重してくれる教員が多いことに対して肯定的に評価していました。また、実習室の充実や、奨学金などの経済的なサポートの充実についても肯定的に評価されていました。

<本学の学習環境についての評価>

- 学問分野の専門家として優れた教員が多い (96.7%)
- 授業以外でも、学生の質問や意見に適切に対応してくれる教員が多い (90.1%)
- 大学生活全体に関して満足している (89.0%)
- 学生一人一人を尊重してくれる教員が多い (87.9%)
- 人間的に魅力があり、尊敬できる教員が多い(87.9%)
- 実習室の教育機材は充実している (84.6%)
- 奨学金制度など経済的なサポートが充実している(84.6%)

2019年度 学習環境に対する評価(学部2～4年生)

